

## 化学・繊維

### 1. 評価対象企業（21社）

帝人、東レ、クラレ、旭化成、レゾナック・ホールディングス（注）、住友化学、日産化学、東ソー、デンカ、信越化学工業、エア・ウォーター、日本酸素ホールディングス、カネカ、三菱瓦斯化学、三井化学、JSR、三菱ケミカルグループ、ダイセル、積水化学工業、UBE、日本ペイントホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）昭和電工が商号を変更した（2023年1月）。

### 2. 評価方法

#### (1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	4	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	22
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	6
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	3	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	12
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

#### (2) 評価実施アナリストは29名（所属先23社）である。（氏名等は後掲）

### 3. 評価結果

#### (1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、項目数、項目内容および配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は72.1点（昨年度70.7点）、総合評価点の標準偏差は6.6点（昨年度同点）となった。
- ② 評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が73%（昨年度同率）、**説明会等**が73%（昨年度72%）、**フェア・ディスクロージャー**が83%（昨年度76%）、**ESG関連**が69%（昨年度67%）、**自主的情報開示**が70%（昨年度68%）となった。
- ③ 評価項目（全15項目）について見ると、平均得点率が80%以上となったのは、次の項目（フェア・ディスクロージャーの2項目）であった。
  - (a) 「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか」（平均得点率82%〔昨年度75%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：70%台3社・80%台16社・90%台2社）
  - (b) 「状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか」（平均得点率85%〔昨年度79%〕）（得点率：

60%台 1社・70%台 3社・80%台 9社・90%台 8社)

④ ESG 関連の 3 項目は、次のとおりとなった。なお、(c)は、全項目の中で最も低い水準となった。

- (a) 「環境 (E) 関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 72% [昨年度 70%]) (得点率: 60%台 10社・70%台 8社・80%台 3社)
- (b) 「社会 (S) に関連する情報を、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか」(平均得点率 69% [昨年度 65%]) (得点率: 60%台 14社・70%台 5社・80%台 2社)
- (c) 「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンス (G) の有効性が示されていますか」(平均得点率 67% [昨年度 64%]) (得点率: 50%台 3社・60%台 12社・70%台 4社・80%台 2社)

## (2) 上位 3 企業の評価概要

### 第 1 位 三井化学 (ディスクロージャー優良企業 [3 回連続 7 回目]、総合評価点 87.2 点 [昨年度比+3.9 点])

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等 (得点率 (以下省略) 90%)、ESG 関連 (83%)、自主的情報開示 (88%) が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位 (92%)、説明会が第 2 位 (88%) となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目が共に最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップをはじめ CFO や各事業部の役員が積極的に IR に関与していることを評価する声のほか、中期経営計画と ESG が一貫した文脈で述べられており、整合性も高く説得力があるとの声が寄せられた。また、「IR 部門の機能、基本スタンス」の 2 項目も共に同得点第 1 位となった。IR 部門に関して、業績変動に関する説明力が高く、事業・製品に関する説明も充実しているとの声、会社の方向性や長期戦略等に関する質の高い議論もできるとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、4 項目全てが 85%以上の得点率となり、特に「四半期情報開示」(第 1 位) および「インタビューにおける補足説明が十分であること」(同得点第 1 位) はいずれも 90%以上であった。これらに関連して、インタビューでの説明が非常に充実しているとの声が寄せられたほか、決算説明会に加え経営概況説明会を開催し、短中期の業績動向と中長期の方向性を丁寧に伝えようとしているとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 1 位) および「速やかな情報提供」(同得点第 1 位) が共に 90%以上の得点率となった。これらに関連して、決算説明会の音声再生や要旨を日英両言語で遅滞なく公表し、質疑応答にも対応していることを評価する声が寄せられたほか、質疑応答の要旨集もわかりやすいとの声もあった。
- ⑤ ESG 関連においては、「環境 (E) 関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していること」が最も高い評価となり、「社会 (S) に関連する情報を、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」も同得点第 1 位となった。また、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンス (G) の有効性が示されていること」も第 2 位となった。これらに関連して、ESG 全てにおいて高いレベルの取組みと開示が継続されており、特に人的資本に関する開示が評価できるとの声があったほか、社会課題解決型事業の売上規模を集計・開示し、自社製品によるサプライチェーンの CO2 削減貢献量も開示しているとの声が寄せられた。また、社外取締役との対話の機会の設定を評価する声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等 (アナリスト主催を含む) を実施し、かつその内容は充実していること」が最も高い評価となった。「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報 (ESG 情報等) を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」(第 2 位) も 90%以上の得点率となった。これらに関連して、IR 部門は IR イベントの開催に積極的との声が寄せられ、充実していたイベントとして、経営概況説明会や大牟田工場見学会を挙げる声が多かった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められる

ので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

## **第2位 日産化学**（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、

総合評価点 82.9 点〔昨年度比+2.1 点〕、昨年度第 2 位〔一昨年度第 3 位〕

- ① 同社は、説明会等が第 1 位（91%）、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位（86%）、ESG 関連が第 4 位（76%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 4 位（87%）、自主的情報開示が第 6 位（76%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」の 2 項目が共に同得点第 1 位となった。これらに関連して、IR 部門は、定性・定量の両面で情報をよく把握しており、質の高い議論ができるとの声や、定量的な情報が十分に開示され、分析がしやすいとの声が寄せられた。「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」（第 2 位）も高く評価された。また、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」（第 5 位）も得点率が改善した。これらに関連して、経営陣は CFO を中心に IR に積極的に関与しており、決算説明会での業績、財務のコメントを継続的に発信しているとの声や、ESG 説明会における知財に関する説明を高く評価する声があった。なお、経営トップによる経営方針や中期経営計画の説明を評価しつつ、さらに IR へ関与することを望む声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」の 2 項目および「説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示」が最も高い評価（同得点第 1 位を含む）となった。また、「四半期情報開示」もトップと僅差の第 2 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、取材時の補足資料の充実した内容と継続性を評価する声のほか、自社の売上高の内訳だけでなくマーケットの見方も開示されているとの声も寄せられた。また、毎四半期の説明会資料を評価する声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 4 位）および「速やかな情報提供」（同得点第 6 位）は共に 85%以上の得点率となった。これらに関連して、IR 資料の日英両言語対応の充実を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていること」が最も高い評価となった。「環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していること」（同得点第 9 位）および「社会（S）に関連する情報を、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」（同得点第 8 位）は共に得点率を改善した。これらに関連して、環境（E）、社会（S）共に業績や企業価値に結び付けた説明が優れているとの声があった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報（ESG 情報等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」（同得点第 5 位）および「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」（第 9 位）が共に得点率を改善した。充実していたイベントとして、ESG 説明会、農業化学品事業説明会を挙げる声があった。

同社は、3 回連続して第 2 位または第 3 位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

## **第3位 積水化学工業**（総合評価点 80.7 点〔昨年度比+3.0 点〕、昨年度同得点第 4 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（83%）、説明会等（84%）が第 3 位、自主的情報開示が第 4 位（78%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 4 位（87%）、ESG 関連が第 5 位（76%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目は昨年度に比べ得点率を改善し、いずれも 80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップが事業・製品に精通したうえで、自身の言葉で経営戦略を伝えようとする姿勢を評価する声が寄せられた。また、事業を通じた環境負荷低減や社会貢献等のアピールができており、説明会における ESG 関連のコメントも評価できるとの声があった。「IR 部門の機能、基本スタンス」は 2 項目共に昨年度と同程度の得点率であった。これらに関連して、十分な数値が開示されており分

析がしやすいとの声や、会社の目指す方向と KPI が一致しておりわかりやすい IR になっているとの声があった。

- ③ **説明会等**においては、「説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示」（第 2 位）が高い評価となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」の 2 項目および「四半期情報開示」についても評価され、いずれも 80%以上の得点率となった。これらに関連して、短中期の業績動向と中長期の方向性を丁寧に伝えようとする姿勢を評価する声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「速やかな情報提供」が同得点第 1 位となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 8 位）も 80%以上の得点率となった。これらに関連して、説明会がハイブリッドで対応され、また、決算説明会の要旨が質疑応答を含め日英両言語で遅滞なく提供されているとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「社会（S）に関連する情報を、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」（第 4 位）および「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていること」（第 4 位）は、いずれも昨年度に比べ得点率が改善した。また、「環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していること」も第 4 位となった。これらに関連して、ESG 全てにおいて高いレベルの取組みと開示が継続しているとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」の得点率が改善し、第 4 位（昨年度第 11 位）となった。充実していたイベントとして、中期経営計画説明会、水無瀬イノベーションセンター見学会を挙げる声があった。

### (3) 上記以外の企業についての特記事項

#### ○ 東レ（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 71.5 点〔昨年度比+7.6 点、一昨年度比+4.8 点〕、第 9 位〔昨年度第 17 位、一昨年度第 13 位〕）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第 5 位（78%）、**ESG 関連**が第 9 位（70%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 13 位（82%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 14 位（70%）、**説明会等**が第 15 位（69%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善し第 9 位となった（昨年度比 8 ランクアップ）。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目の得点率が、昨年度に比べ改善した。これらに関連して、新しい経営トップは自身の言葉で説明、回答するなど **IR 姿勢**の積極性に期待ができるとの声や、中期経営課題の定量的な説明が少しずつ充実してきているとの声が寄せられた。なお、会社にとって都合の悪い情報の開示について改善を望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」の 2 項目の得点率が、昨年度に比べ改善した。これらに関連して、定量的情報の開示に進歩がみられる、**IR 部門**による説明力も向上しているとの声が寄せられた。なお、業績変動要因を理解するうえで必要な定量情報の一層の充実を望む声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の 2 項目は昨年度に比べ得点率が改善し、いずれも 80%以上となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していること」（第 5 位）および「社会（S）に関連する情報を、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」（第 7 位）は、いずれも昨年度に比べ得点率が改善した。これらに関連して、環境に貢献する製品を多く持ち、説明会を開催するなど環境（E）に対する意識が高いとの声があった。なお、ガバナンス（G）に関する情報発信を経営トップに望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の 2 項目のうち「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」は、昨年度に比べ得点率を大幅に改善し、同得点第 2 位（昨年度第 16 位）となった。充実していたイベントとして、**IR Day**において実施された各事業の説明会を挙げる声が多かった。そのほか、中期経営課題説明会を挙げる声もあった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以上

# 2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表（化学・繊維）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目4 (配点30点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目4 (配点22点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目2 (配点6点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目3 (配点30点)		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示 評価項目2 (配点12点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4183 三井化学	87.2	27.0	1	19.4	2	5.5	1	24.8	1	10.5	1	1
2	4021 日産化学	82.9	25.7	2	20.1	1	5.2	4	22.8	4	9.1	6	2
3	4204 積水化学工業	80.7	24.9	3	18.5	3	5.2	4	22.7	5	9.4	4	4
4	3407 旭化成	80.5	23.9	4	17.4	4	5.5	1	24.1	2	9.6	3	4
5	4005 住友化学	79.1	23.8	5	17.2	5	5.2	4	22.9	3	10.0	2	3
6	4208 UBE	74.5	23.1	6	16.2	8	5.1	7	21.2	8	8.9	7	6
7	4188 三菱ケミカルグループ	72.0	21.3	11	14.9	17	5.4	3	21.9	6	8.5	10	10
8	4185 JSR	71.6	21.2	12	16.6	7	5.0	10	20.5	11	8.3	11	7
9	3402 東レ	71.5	21.1	14	15.1	15	4.9	13	21.1	9	9.3	5	17
10	3401 帝人	71.2	21.6	8	15.6	11	4.8	16	21.5	7	7.7	15	14
11	4061 デンカ	70.6	21.6	8	17.0	6	4.9	13	19.6	15	7.5	16	8
11	4612 日本ペイントホールディングス	70.6	21.6	8	15.7	10	5.1	7	20.0	12	8.2	13	9
13	4182 三菱瓦斯化学	69.9	21.7	7	15.9	9	4.8	16	19.5	16	8.0	14	11
14	4202 ダイセル	69.0	21.2	12	15.4	13	4.7	19	19.1	17	8.6	9	12
15	3405 クラレ	68.9	20.2	18	14.6	19	5.0	10	20.8	10	8.3	11	20
16	4042 東ソー	68.5	20.6	17	15.5	12	4.8	16	18.9	18	8.7	8	16
17	4004 レゾナック・ホールディングス	68.4	20.9	15	15.2	14	5.1	7	19.7	14	7.5	16	12
18	4091 日本酸素ホールディングス	67.6	20.9	15	14.9	17	4.9	13	19.8	13	7.1	18	15
19	4063 信越化学工業	65.0	20.0	19	14.2	20	5.0	10	18.8	20	7.0	19	19
20	4088 エア・ウォーター	63.9	18.7	21	15.0	16	4.7	19	18.9	18	6.6	21	18
21	4118 カネカ	60.4	18.9	20	12.7	21	4.1	21	17.8	21	6.9	20	21
	評価対象企業評価平均点	72.09	21.90		16.05		4.99		20.78		8.37		

## 2023年度評価項目および配点（化学・繊維）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えてありますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
①IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	9
②会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（22点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	7
②インタビューにおける補足説明は十分ですか。	7
(2)説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示	
・説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていますか。	5
(3)四半期情報開示	
・四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー（6点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。	4
(2)速やかな情報提供	
・状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	2
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
①環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していますか。	10
②社会（S）に関連する情報を、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。	10
③資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていますか。	10
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（12点）	配点
①工場見学、ESG説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか。【過去1年間を目安に評価】【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	7
②統合報告書、ファクトブック等の内容は充実していますか。また、統合報告書において非財務情報（ESG情報等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えてありますか。 【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	5

化学・繊維専門部会委員

部会長	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
部会長代理	山田 幹也	みずほ証券
	岡寄 茂樹	野村証券
	木村 光宏	野村アセットマネジメント
	澤砥 正美	SBI 証券
	野口 英彦	アセットマネジメント One
	渡辺 勇仁	大和アセットマネジメント

評価実施アナリスト (29名)

伊藤 健悟	QUICK	坪井 暁	ニッセイ アセット マネジメント
今津 拓洋	アセットマネジメント One	仲田 育弘	マコーリーキャピタル証券会社
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	西平 孝	岡三証券
梅林 秀光	大和証券	西脇 秀敏	三菱 UFJ 信託銀行
大野 剛	丸三証券	野口 英彦	アセットマネジメント One
岡寄 茂樹	野村証券	林 智夫	朝日ライフ アセットマネジメント
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
喜多 徳明	明治安田生命保険	宮本 剛	SMBC 日興証券
木村 光宏	野村アセットマネジメント	百田 史哉	三井住友トラスト・アセットマネジメント
河野 孝臣	野村証券	山田 幹也	みずほ証券
齋藤 達哉	三井住友 DS アセットマネジメント	吉田 篤	みずほ証券
阪口 和輝	大和証券	渡辺 勇仁	大和アセットマネジメント
澤砥 正美	SBI 証券	渡邊 亮一	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
鹿内 美欧	JP モルガン証券	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
高橋 豊	極東証券経済研究所		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。